

年間研修計画の工夫

中学校

特別支援教育に関する内容を年間にわたって実施した取組

○ 実践の概要

研修の年間計画	
	内 容
4月	○ 生徒理解を図る研修 ・特別支援教育コーディネーターが、特別な教育的支援を必要とする生徒の実態及び指導や支援について説明し、全教職員で共通理解を図りました。 ・自立活動についての説明を行い、通常の学級に在籍している特別な教育的支援を必要とする生徒についても、自立活動の視点で困難さを改善・克服できるようにしました。 ○ 職員会議を活用した短時間での生徒理解を図る研修（通年） ・毎月の定例職員会議で、特別な教育的支援を必要とする生徒について指導の成果と課題を確認したり、今後の指導や支援について検討したりすることで、全教職員が生徒を理解し、一貫した指導や支援を行えるようにしています。
5月	○ 学級づくり、授業づくりに係る研修 ・校内研修プログラムを活用し、特別な教育的支援を必要とする生徒への配慮を含めた学級づくりや授業づくりの取組を交流しました。 ・また、校内研修のテーマとしている「生徒指導の三機能を生かした授業改善」の取組は、特別な教育的支援を必要とする生徒を含む全ての生徒にとって、居心地のよい学級となり、学習意欲が高まることを確認しました。
11月	○ 近隣中学校との合同研修 ・近隣の中学校と合同で、外部講師を招いたピア・サポートの研修を行い、生徒が良好な人間関係をつくれるようにする取組や教師の適切な関わり方について学びました。

※生徒指導の三機能「自己決定」「自己存在感」「共感的な人間関係」

○ 実践の成果

本取組では、特別支援教育にかかわる研修等を計画的に行ったことにより、特別支援教育の視点や「生徒指導の三機能」を生かすことが、全ての生徒にとって居心地のよい学級づくりや全ての生徒にとって分かりやすい授業づくりにつながることについて、教職員で理解を深めました。

また、全教職員で生徒の実態や指導、支援の内容や方法を共有することにより、一貫した指導や支援が行えるようになってきました。